

朝晩は秋らしく涼しくなってきましたが、日中はまだまだ暑い日が続いて温度差がはげしいので体調を崩されませんようにお気をつけください。

有限会社美栗陸送 代表取締役 栗本佳孝



本州で1番北にある運輸支局の青森陸運局へ販売した車両の登録に行ってきました。

購入いただいた車両はあらかじめ現地に陸送しておいて、私は交通機関で青森へ。さすがにこちらより涼しかったです。

わざわざ青森まで登録と納車に私が行かなくても、私どものネットワークを使えば問題なく納車まで完了できるのですが、お客様からのご要望で青森で登録をして、弘前市で納車をしました。

私が登録納車に何うと交通費や私の日当も発生して、現地で購入したほうがよほど安いのですが、それを承知で購入していただきました。

青森の陸事は、広さは広いのですが登録に来る台数は高山の陸事よりやや多いくらいで、書類を退出して15分ほどで封印まで終わっていました。車検証も無料でコピーしていただきました。青森の陸事の人にも親切だし、とても良い出会いをさせていただいたことに感謝しています。



右の画像は、先日HAA神戸で仕入れたホンダレジェンドの右ドアミラーのウインカーですが、レンズにヒビ入って中まで錆びているのに、出品表はノーチェックでした。搬出時にドライバーが会場に申告してきましたが会場にクレームの申し出をしたら即答で「内外装はノークレーム」という返事でした。

オークションでの仕入れを始めてまだ日が浅いですが、ネットで遠くからでも応札できる反面、リスクの高いシステムだと痛感しました。



メディア情報

8月13日物流 Weekly

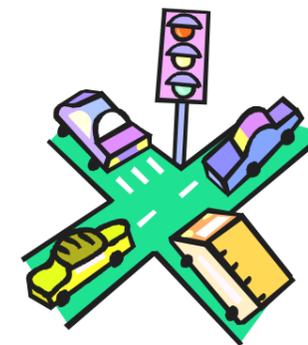
オークション代行を始めたことが掲載されました。

以前からお伝えしておりますが、無料で新聞に出ることは意外と簡単で効果はかなりありますから、新聞に記事として掲載されることをお勧めします。



安全で快適に運転するためには・・・

最近、時間と心にゆとりのない運転が目立っているように思います。悪質なマナー違反の車を以下、8点挙げてみました。



1. 一時停止で完全に停止すると、後続車がクラクションを鳴らす
2. 右折待ちで停止中に、後続車が先に右折を始めて対向直進車と衝突寸前
3. 渋滞中、対向車線を走ってかなり先の交差点を右折する
4. 赤信号で停止している車両を、右折車線を使って追い越し先頭に出る
5. 信号のない横断歩道上に平気で停止する
6. 進路変更禁止区域で進路変更をする
7. 見通しの悪い住宅街など、同幅員の道路が交差する狭い交差点を、減速せずに通過する
8. 高速道路の渋滞で路肩を走行する

数え上げたらキリがありません。

これらの運転は、事故を発生させる危険な運転であるものがほとんどです。

また、事故に至らなくても、周囲の車両を驚かせたり、怒らせたりし、トラブルに発展する可能性のある極めてマナーの悪い運転ではないでしょうか。

確かに、時間に追われて忙しく、また至るところで渋滞し、予定通りのスケジュールで運転できないことがよくあります。しかしながら、例えば軽い物損事故を起こしたとしても、警察への届出と事故処理を終えるのに最低でも1時間のロスは避けられません。

また、トラブルになり周囲のドライバーと口論になっても、時間のロスは発生します。そして、車両から降りて注意をしに来たドライバーを引きずって逃走する、という最悪事態になってしまえば目も当てられません。

予期せぬ渋滞などで、少しでも時間を取り戻そうと、上記の運転をしてしまう衝動にかられることも理解できます。しかし冷静に考えると、上記の運転をして取り戻せる時間はほんの少しです。

それくらいの時間なら、ちょっと安全な場所に停車して先方に遅れる旨を伝えても、恐らく許してもらえる範囲内ではないでしょうか。

そして、先方に許しを得て、気持ちに余裕を取り戻して、気持ちよく運転を再開した方が快適に運転できるでしょう。また、時間に追われているわけでもないのに、周囲のドライバーの気分を損ねる運転や、危険な運転をするのはやめましょう。時間に余裕があるときは、極力、周囲の急いでいる車両に譲ってあげましょう。そうすれば、めぐりめぐって、あなたがここぞという場面で、別のドライバーが譲ってくれるはずですよ。

最後に、上記のマナー違反や危険な運転を見かけたとしても、同じように追従したり、反対にやり返すような運転をしないようにしましょう。

難しいことかもしれませんが、嫌な思いをしても、あなたの運転に影響を及ぼさないことが大切です。そのためにもマナー違反の車両とは距離を置き、心理的に影響を受けないように努めましょう。あなたが無事に帰ってくるのを待っている家族、恋人、友人、同僚のことを考えると、みすみす事故やトラブルに巻き込まれる運転なんて、できるはずがありません。



お互い、常に安全で快適に運転できる方法を考えて行きたいものですね

(犬塚芳彰)

(松本千晶編集)